

シャープが中国液晶パネル大手と提携

経営再建中のシャープが、中国の液晶パネル大手である南京中電熊猫信息产业集团（CECパンダ、南京市）と提携することが26日、分かった。

現地に合弁会社を設立し、数百億円程度を出資。

2015年にも液晶パネルの共同生産に乗り出す。

消費電力が少ない独自の新型液晶「IGZO（イグゾー）」の技術などを供与し、技術料名目で数百億円を受け取る。

技術流出への懸念からIGZOの技術供与には慎重だったが、経営再建を優先して自前主義を転換、協業に踏み切る。

米通信技術大手クアルコム、韓国サムスン電子に続く有力メーカーとの提携で収益改善を急ぐ。

中国では、内外のメーカーが競って液晶パネル工場を建設している。

CECパンダはシャープの技術で競争力を高める。

CECパンダが南京市に約3,000億円を投じて建設中の新工場で、まずIGZOを使わないテレビ向けの大型パネルを共同生産する。

将来的にスマートフォン（多機能携帯電話）やタブレット型端末向け中小型のIGZOも生産する。

シャープが現地で技術指導を行い、パネルの一部を引き取る権利を保有する。

シャープは09年、CECパンダの親会社で、中国国営の中国電子信息产业集团（CEC、北京市）と液晶パネルの共同生産に向けて協議することで合意。

亀山第1工場（三重県亀山市）の液晶パネルの生産設備をCECパンダに売却したが、パネルの共同生産は沖縄県・尖閣諸島問題の影響で遅れていた。

シャープは、中期経営計画の最終年度となる16年3月期に液晶事業の売上高で1兆500億円を目指している。

液晶分野では、NECも中国電機大手と上海市内の合弁工場パネルを生産したことがある。